

中核遺跡 <比爪館(2)>

これまでの発掘調査は、現赤石小学校敷地である区画内部の、北西部に集中しています。この地点では規模の大きい四面廂建物や、井戸跡も多数検出されており、「居住用施設」の「御所」的な場が想定されます。

また、比爪館跡の区画内に「大莊嚴寺」という寺院があったことが伝えられています。大莊嚴寺は近世初頭に盛岡城下建設に伴い移転しています。現在、区画内部の南西部には「薬師神社」が鎮座しています。薬師神社は大莊嚴寺の鎮守社と推測されます。また、薬師神社境内の南側の個人宅敷地内には阿弥陀堂があり、大莊嚴寺ゆかりとされる阿弥陀如来像が奉られています。これらのことから、大莊嚴寺の所在位置は比爪館跡区画内の南西部であったと想定されます。(次号につづく) — 岩手県立博物館テーマ展『比爪-もう一つの平泉-』パンフレットより —

《《《 3～4月行事予定のお知らせ 》》》

3月18日 (水曜日)	第60回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：田村勝則 テーマ：延喜式内社志賀理和気神社について
4月15日 (水曜日)	第61回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：平井和夫 テーマ：赤沢の義経伝説について

新春フォーラム 歴史・資源を生かす 紫波の新しい観光振興計画 パネルディスカッション

岩手日報

2015年(平成27年)2月3日(火曜日)

紫波町平泉関連史跡連携協議会(佐々木忠夫会長)主催の新春フォーラムは1日、同町紫波中央駅前2丁目のオカールプラザで開かれ、地域の歴史・資源を生かした観光振興の在り方を探った。町民ら約50人が来



歴史・資源を生かした観光について意見を述べる(右から)石幡信さん、高橋敬明さん、高橋栄悦さん、深沢剛さん

紫波町の「平泉」どう活用

関連史跡連携協議会 観光振興へ討論

光振興計画をテーマに意見交換した。高橋敬明会長は「歴

史を大切にし、観光産業の大きな柱にすべき」と世界遺産「平泉」から観光客を誘導する重要性を主張。石幡さんは「歴史シンポジウムを開いて売り込み、多くの研究者が来て研究会を開くようにしなければならぬ。大学を積極的に巻き込んでいく必要がある」と提案した。

しゃ・ペーによる講演「平泉の武士道」も披露された。

場。熊谷泉町長の基調講演に続く。パネル討論では、町議会産業建設常任委の深沢剛委員長、町観光交流協会の高橋栄悦会長、赤石地区ひづめ館懇話会の高橋敬明会長、町観光案内人しゃ・ペーの石幡信さんが町の次期観

☀ ☀ ☀ 比爪館跡の発掘調査 No.17 ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀

【第11次発掘調査】 比爪館 第11～18次発掘調査報告書－赤石小学校施設工事関連－＜紫波町教育委員会（平成14年3月31日発行）＞から

第24号から41号まで続けた比爪館跡発掘調査シリーズを再開します。比爪館跡の第11次発掘調査は第10次調査の翌年、平成2年に行われましたが、10年以上の時を経て発掘調査報告書が発行されました。この報告書の表題は「第11次～第18次発掘調査報告書」となっていますが、内容的には第11次調査の報告と、第12次・16次・第18次調査の一括報告が記載されています。

第13次と第17次の調査報告は、紫波町文化財調査報告書第26集と第30集に記載され、第14次と第15次は試掘のみで報告なしです。この報告書の序文では、奥州藤原氏一族、比爪俊衡らの比爪館についての的確な認識と調査結果の重要性を説いています。

序

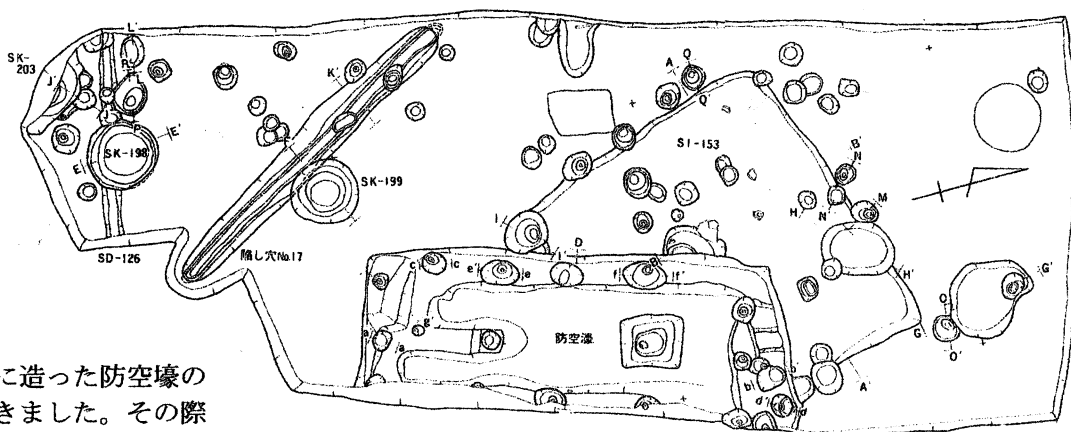
環境新世紀を宣言し、日々発展を続ける紫波町、この町の歴史を振り返ると、縄文時代の巨大な祈りの場であった西田遺跡、総戸数何百という奈良～平安時代の中田・稲村遺跡群、中世斯波御所と呼ばれた香水寺城など、太古からの文化の流れが絶えることなく続いています。そして、今回報告する奥州藤原氏一族、比爪太郎俊衡・五郎季衡の比爪館も、当時の紫波の文化、社会、経済を象徴する遺跡です。

今回の比爪館の調査は、紫波町立赤石小学校の施設整備の必要から実施しました。平成2年から平成6年まで町教育委員会が実施した、述べ1,211㎡分の調査報告です。その結果、大溝と建物跡など、12世紀の比爪館における遺構群の類例が増え、今まで不明だった館の構造や変遷を解明する重要な調査となりました。

比爪館は奥州藤原氏が奥六郡に置いた三つの館である、衣川の館、江刺の館、比爪の館のうち、一族を配した唯一のものであり、また、発掘調査で場所が確認されているのもここだけです。この報告書の刊行が、紫波町のみならず、東北地方全体の古代から中世への転換を知る上で、貴重な資料の蓄積になると言えます。その時代の研究に広く役立つことができれば幸いです。

第11次調査の詳細は6～17頁にありますが、第10次の報告で「調査区全域から約3,000基の柱穴が検出されたが、現在まだ整理中であり、記載・説明は第11次以降の報告書に併載する。」とした遺構・遺物に関しては、この報告書では残念ながら記載されていません。

調査期間 平成2年5月27日～6月30日 調査面積 76㎡（北調査区59㎡南調査区17㎡）
調査場所 赤石小学校北東部分（現在の校門の北および南） 調査員 桜井芳彦、小岩宏明



※ 戦時中に造った防空壕の跡も出てきました。その際堅穴住居跡を毀しているのが判ります。

第3図 第11次調査N区遺構配置図

会 員 募 集 中 (会費 年額 2,000 円)

主旨に賛同する方、どなたでも歓迎します。お申込は、赤石公民館内の事務局まで。

☎ 019-676-3999 / 090-3125-3776 (高橋)